

### 中学校国語A 設問一の二

「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。

右の解答は、どれが正答でしょうか。また、何が誤答の原因となっているのでしょうか。



### 生徒の解答例

- 1 彼は、夕日の美しさに心を打たれた。
- 2 親友の心優しさと慈悲深さに心を打たれた。
- 3 有名な歌手の、力強い歌声を聞いた。私は心を打たれた。
- 4 選手たちの努力を惜しまない姿に心を打たれた。

正答は1です。3は二文です。2と4は主語が不明確です。



正答率が低い原因は？

- ・主語と述語の関係を捉えることができていない？
- ・条件に合わせて書くことが苦手？

具体的な授業改善について考えてみましょう。



目的や条件に合わせて文章構成や表現を見直す力を付けたい

そのために

推敲の観点や意図を踏まえて交流する学習活動を設定する！



確かに、「推敲」といっても誤字・脱字の確認程度で終わってしまうことが多いですね。

## 各学年の発達段階に応じた指導方法を工夫しましょう

【小・低学年】

### 語と語や、文と文との続き方を確かめる

【下書き】シュートをきめたので、「じょうずだね」と言いました。

【推敲後】お兄ちゃんがシュートをきめたので、ぼくは「じょうずだね」と言いました。

シュートをきめた人と、「じょうずだね」と言った人が分かるように、主語を入れた方がいいね。

低学年のうちから主述の関係が正しく書けているかどうかを見直す習慣を付ける。

【小・中学年】

### 相手や目的を意識した表現になっているか確かめる

【下書き】「かみかみあえ」を食べると虫菌になりにくいのでおすすめ。

【推敲後】「かみかみあえ」を食べると虫菌になりにくいそうです。ぜひ食べてください。

大人の人に「かみかみあえ」をおすすめする文章だから、文末を丁寧な言葉に直してみよう。

「〇〇にふさわしい言葉で書く」という問題が、全国学力・学習状況調査でよく出題されています。

【小・高学年～中学校】

### 文章全体の構成や書き表しなどに着目して書いた文章を読み直し、文全体を整える

【条件】資料から自分の主張に必要な情報を引用して書く

【下書き】平成二十九年に発行された「地球環境の今」によると、今後、地球の気温は上昇し続けます。このままでは、大きな災害が起こるかもしれません。

【推敲後】私は、今後よりいっそう温暖化対策を推進すべきだと考えます。平成二十九年に発行された「地球環境の今」には、「今後、地球の気温は上昇し続ける。」と書かれています。このままでは、大きな災害が起こる可能性もあると思います。

推敲するときには、  
①主張の根拠となる資料を適切に引用できているか  
②事実と感想、意見とが区別して書かれているかを確認してください。



どこからどこまでが引用なのかな。これでは書き手の主張が分かりにくいね。



「」を使って正しく引用すること、文末表現を工夫することで、事実と感想、意見との区別が分かりやすくなったね。



主張をまず書いて、引用文は「」にしたのかな。

推敲の観点を明確にし、正しく書けているかどうかを丁寧に確認することが大切です。

交流しながら文章をよりよくしていくことはもちろん大切ですが、最終的には自分自身で文章構成や表現を見直す力を付ける必要があります。低学年のうちから、文章を読み返し間違いを直す習慣を確実に付けていくことが重要です。